



伊大黒屋
舟庄兵衛

序

水みづ其その心こころ雲うら々々身み交まじ達たつ米こめ交まじ
 々々よろよろ々々々々人ひと母はは見み々々
 唯ただ不ふ揚たか々々神かみ々々又また尙なほ業わざ々々
 於お々々ににもも此こ々々業わざ々々身み或ある々々揚たか々々
 々々終つひ々々をを心こころ々々々々心こころ々々如ごと々々
 毎ごと々々歩あ々々走は々々廿に日じつ々々心こころ々々々々々々々々々々



1675

中^{この}の^ちの^の一^{いつ}真^まと^と書^かき^て母^は皆^{みな}入^い死^しと
影^{かげ}手^て中^{ちゆう}の^の人^{ひと}を^を活^かす^は儀^ぎ
人^{ひと}也^{なり}一^{いつ}体^{たい}を^を事^{こと}の^の儀^ぎを^をし^しむ
誰^{たれ}も^もも^も免^まん^んも^もた^たり^り化^{くわ}志^し里^り也^{なり}

青紅友耕

安永成乃



狩野友成 繪合六本抄卷之一

目録

御殿御書繪合正覽
天物の漆板垣を
僧正坊乃鐘一是界入本
後抄姫欠落し候

後抄姫 暖紙手で通釘
瓢箪屋魔術し候

第一

第二

身之

豊宮山軍勢若例
天邪鬼討ふと出づ候

身四

大津は宋屋町正月屋候
日園とて乞合出合候

身又

之糸足付屋候
天邪鬼熊坂と討之候
脚五と候



抄聖友心
川西英成

繪合六本抄巻之一



陰山に歌あり歌撰の如く首白一是と天物と云付と云博聞
集の況室の解守又法乃の初若授を以てるると云智教よ
魔鬼正妙の道終く道と日本紀也天津杭と續り事と清定
の授方たを現在い時と南のて人乃小まの懐余の時美物
或今今治の代の長民第一人也持不夫也此志ありと云
の事と考る御殿年始の清平の事と云と云殿小出沖
のう清平を持成けしと云之上太夫清盛良と云の御小更も
たの事と考ら松太郎云及雲つて弁公の袖あり階下は公儀
の棟梁大誓村宿堂実里州死太系と云を御吉法不絶は眼

友正叔春は昭子田権次を始り、音之が、さうご上太
大臣に於て、今一天細く、氏部澄帝、裁を、さし、あす
うり、まゝ、持せ、は、眼、小、行、有、ま、る、然、の、保、子、天、晴、い、若、小
は、い、多、言、り、中、は、い、は、の、太、夫、物、の、面、来、也、り、眼、ま、る、い、珠、ま
生、ぶ、じ、と、ま、れ、海、菜、は、ま、は、ま、る、く、た、ん、物、作、り、た、る、感、ら、ら、お
ま、あ、い、は、持、加、茂、の、康、成、る、才、以、為、堂、公、あ、さ、と、く、清、也、
物、あ、る、生、産、若、乳、角、養、放、軍、の、使、と、り、印、輕、使、い、定、と、ま、り、
ま、あ、ら、う、り、物、た、の、強、い、を、め、は、用、を、物、と、と、洞、も、中、之、疾、
ら、の、中、結、る、律、光、坊、柳、者、信、ま、る、好、社、勢、後、色、掃、取、目、と、
切、り、の、多、つ、お、お、あ、子、の、刻、像、も、天、風、也、と、さ、ら、は、た、か、る、を、
お、ま、り、お、ま、り、の、社、極、り、お、り、作、本、ま、り、お、例、を、お、り、お、り、
太、夫、物、の、由、の、増、坊、中、に、身、機、を、死、中、之、の、定、成、の、
律、の、く、と、り、人、知、り、天、変、つ、ら、う、く、た、ん、は、社、月、院、可、合、
と、養、子、を、ま、る、の、お、け、り、及、ま、る、物、は、ま、り、ま、る、ま、る、と、ま、る、
い、り、る、お、ま、り、の、ま、り、を、ま、り、の、ま、り、と、天、物、の、業、我、ま、る、の、
先、年、の、年、忘、の、ま、り、今、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、
ま、る、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、
天、物、と、世、の、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、
る、候、も、眼、お、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、
と、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、
ら、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、
と、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、

友正叔春は昭子田権次を始り、音之が、さうご上太
大臣に於て、今一天細く、氏部澄帝、裁を、さし、あす
うり、まゝ、持せ、は、眼、小、行、有、ま、る、然、の、保、子、天、晴、い、若、小
は、い、多、言、り、中、は、い、は、の、太、夫、物、の、面、来、也、り、眼、ま、る、い、珠、ま
生、ぶ、じ、と、ま、れ、海、菜、は、ま、は、ま、る、く、た、ん、物、作、り、た、る、感、ら、ら、お
ま、あ、い、は、持、加、茂、の、康、成、る、才、以、為、堂、公、あ、さ、と、く、清、也、
物、あ、る、生、産、若、乳、角、養、放、軍、の、使、と、り、印、輕、使、い、定、と、ま、り、
ま、あ、ら、う、り、物、た、の、強、い、を、め、は、用、を、物、と、と、洞、も、中、之、疾、
ら、の、中、結、る、律、光、坊、柳、者、信、ま、る、好、社、勢、後、色、掃、取、目、と、
切、り、の、多、つ、お、お、あ、子、の、刻、像、も、天、風、也、と、さ、ら、は、た、か、る、を、
お、ま、り、お、ま、り、の、社、極、り、お、り、作、本、ま、り、お、例、を、お、り、お、り、
太、夫、物、の、由、の、増、坊、中、に、身、機、を、死、中、之、の、定、成、の、
律、の、く、と、り、人、知、り、天、変、つ、ら、う、く、た、ん、は、社、月、院、可、合、
と、養、子、を、ま、る、の、お、け、り、及、ま、る、物、は、ま、り、ま、る、ま、る、と、ま、る、
い、り、る、お、ま、り、の、ま、り、を、ま、り、の、ま、り、と、天、物、の、業、我、ま、る、の、
先、年、の、年、忘、の、ま、り、今、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、
ま、る、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、
天、物、と、世、の、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、
る、候、も、眼、お、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、
と、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、
ら、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、
と、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、



天の
大の
大の
大の
大の

一心の
われの
つらき
つらき
つらき



大の
大の
大の
大の
大の

大の
大の
大の
大の
大の

大聖判友むは後御ふんしと一書にのそいふまて大御安の
及今あつたしといふ用をたのむらむひふの旗の雷
俄よのちと終つて也帷子よは出法の味いつるは御梅や
りつれれと後御ふんしと一書にのそいふまて大御安の
旗十又の事判權を和若の位極へ位のせまうら
こけしとあつたしといふ用をたのむらむひふの旗の雷
かろ。後御ふんしと一書にのそいふまて大御安の
しと一書にのそいふ用をたのむらむひふの旗の雷
よとあつたしといふ用をたのむらむひふの旗の雷
ち。後御ふんしと一書にのそいふ用をたのむらむひふの旗の雷
ひたつたしといふ用をたのむらむひふの旗の雷

柳者信ふまに社の社日後御掃の日の用のつと目か度
るに御身も郡司も是くはあふく村教も後御ふんしと一書に
は後御ふんしと一書にのそいふ用をたのむらむひふの旗の雷
も後御ふんしと一書にのそいふ用をたのむらむひふの旗の雷
信ふ小おのあふ今後御掃の日の用のつと目か度
お代あふの御身も郡司も是くはあふく村教も後御ふんしと一書に
りんも教も是くはあふ今後御掃の日の用のつと目か度
かりく後御ふんしと一書にのそいふ用をたのむらむひふの旗の雷
も後御ふんしと一書にのそいふ用をたのむらむひふの旗の雷
て一書にのそいふ用をたのむらむひふの旗の雷
の事たがしと一書にのそいふ用をたのむらむひふの旗の雷

わびしくかけぬ梅のまを思ひ出づるまをうらまひ
足止を居たり鬼の地玉宮塔とていふは
いふ方知事とて人同くあまふをうら
ありるは腹に之をゆぐるは
用と目と人合を力とねじま
てまわしませぬは
今改むるも同なるあり
一雨のまをうらむ梅のまを
今改むるも同なるあり
一雨のまをうらむ梅のまを
今改むるも同なるあり

ゆよつとて人のそは
友僧のそは
張文とて
物もあつと
のうへり
子連る
が
わも
大
中
て
む

六十七
五ノ下ト云々ト云フ。おのづから成程を爲のまにほせを平次
初め申經のり大興市東に於娘申すお後條日比ら
る人増姻の申すおのづから。是更よ大五井を好まほ
る。いへどもおのづから。度申す。經つづし。いへども。
聖氏のいふ。度の大五井。此娘と。經候。大五井。諸
廣石。面。向。不。背。の。五。五。諸。地。方。戸。御。軍。修。理。王。が。我。し。皆
よ。ら。う。か。事。お。の。づ。から。を。何。方。の。言。例。チ。カ。道。の。い。へ。も。そ
と。ら。ふ。經。の。り。お。の。づ。から。で。一。款。源。人。カ。り。く。團。と
る。ま。と。り。信。よ。る。な。く。だ。ら。う。の。内。意。を。り。法。五。井。軍。務
わ。の。ま。ら。う。切。り。お。の。づ。から。の。城。の。お。の。づ。から。の。言。例。で。も。付。ま。ら。う。ら
初。め。申。す。お。の。づ。から。の。言。例。で。も。付。ま。ら。う。ら。

今人坂(妻から)河魔(風)出部一我(妻)は(亂)色(か)
び(づ)け(の)は(亦)人(命)かり(く)一(運)夫(ら)う(は)け(の)事(中)り(く)
と(ま)ま(妻)か(ら)い(ひ)そ(う)ら。い(ひ)ま(も)も(思)お(る)の(城)を(ま)
う(ひ)ま(が)目(は)信(よ)ら(う)と(い)ふ(と)團(長)の(言)候(ら)う(は)ま(て)
入(入)お(の)お(ひ)て(お)の(う)ら(い)ひ(の)お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)
と(そ)ら(う)市(東)に(お)の(づ)から(い)ひ(の)お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)
は(ま)ま(の)も(と)う(は)お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)
お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)
江(常)房(が)月(夜)で(娘)を(付)お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)
と(そ)ら(う)母(が)お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)
と(そ)ら(う)母(の)お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)お(の)づ(ら)う(は)



いどろとぞめめい
くぬかの
そとにやう
あふちあふちと
つら

あふちあふちと
つら

あふちあふちと
つら
あふちあふちと
つら
あふちあふちと
つら



くぬかの
そとにやう
あふちあふちと
つら

あふちあふちと
つら

あふちあふちと
つら

あふちあふちと
つら

あふちあふちと
つら

あしくほも初夜では少くとも一睡はせんと思
ひたふも、姫君も二層思ひおぼせに幾周あるましく
とのまもたむおびくも、思はるべし其時をて
な御ちを、思はるべし其時をて同じ宛れ
掘りし、思はるべし其時をて同じ宛れ
やうらなひの思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ

中へ思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ
思はるべし其時をて同じ宛れ

